21世纪应用日语规划教材

じつよう
にほんご

# 实用日语


• 总 主 编　彭广陆
• 副总主编　何　琳　马小兵
• 审　　订　[日] 守屋三千代


## 高级（上册）


• 主　编　王轶群　[日] 宫崎泉
• 副主编　李丽桃



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

1542131

H36
0335-1

21世纪应用日语规划教材

CS1703024-6

# 实用日语

总 主 编　彭广陆
副总主编　何　琳　马小兵
审　　订　[日]守屋三千代

## 高级（上册）

主　编　王轶群　[日]宫崎泉
副主编　李丽桃

H36
0335-1

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

重庆师大图书馆

**图书在版编目(CIP)数据**

实用日语：高级. 上册/彭广陆总主编；王轶群，(日)宫崎泉主编. —北京：北京大学出版社，2012.10

(21世纪应用日语规划教材)

ISBN 978-7-301-21331-5

Ⅰ. ①实… Ⅱ. ①彭…②王…③宫… Ⅲ. ①日语—高等学校—教材 Ⅳ. ①H36

中国版本图书馆CIP数据核字(2012)第233499号

**书　　名：实用日语：高级(上册)**
著作责任者：彭广陆　总主编　王轶群　[日]宫崎泉　主编
责 任 编 辑：兰　婷
标 准 书 号：ISBN 978-7-301-21331-5/H·3150
出 版 发 行：北京大学出版社
地　　址：北京市海淀区成府路205号　100871
网　　址：http://www.pup.cn
电　　话：邮购部62752015　发行部62750672　编辑部62767347　出版部62754962
电 子 信 箱：lanting371@163.com
印　刷　者：三河市博文印刷厂
经　销　者：新华书店
787毫米×1092毫米　16开本　16.75印张　290千字
2012年10月第1版　2012年10月第1次印刷
定　　价：38.00元

未经许可，不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

**版权所有，侵权必究**

举报电话：(010)62752024　电子信箱：fd@pup.pku.edu.cn

# 编委会成员

**主任：**彭广陆（北京大学教授）
**顾问：**守屋三千代（创价大学教授）

（以汉语拼音为序）
毕晓燕（首都师范大学讲师）
董继平（首都师范大学副教授）
宫崎泉（原北京林业大学外国专家）
何　琳（首都师范大学副教授）
李丽桃（首都师范大学副教授）
刘　健（首都师范大学讲师）
铃木典夫（北京外国语大学外国专家）
马小兵（北京大学副教授）
磐村文乃（清华大学外国专家）
彭广陆（北京大学教授）
王轶群（中国人民大学副教授）

# 目　次

第１課　川柳を作る楽しみ …… 1
- 日本の文学の一形式である川柳に親しむ
- 川柳を通して、日本の社会事情や文化を理解する

第２課　清宮克幸新監督に聞く …… 22
- インタビュー記事を読み、人物の思想や考えを理解する
- プロフィールの書き方を学ぶ

第３課　その朝 …… 44
- 小説を読み、人々の感情の動きをつかむことができる
- 日本語の感情表現について学ぶ

第４課　改まった通信文 …… 68
- 改まった通信文の書き方を理解し、やりとりができるようになる
- 相手に配慮した催促やお詫びができるようになる

第５課　相互理解へ向けて …… 93
- 論説文を読み、その主旨が理解できる
- 言語と文化に関しての理解を深める

第６課　式典スピーチ …… 111
- 社会文化習慣を濃く反映した文章が読め、文化慣習の違いが理解できる
- フォーマルな場で簡単なスピーチができるようになる

第７課　職人のこだわり …… 136
- 自分の経験や意見を中心として展開する文章が読める
- ブログなどで使用されるくだけた表現が理解できる

第８課　新聞を読もう …… 168
- 新聞記事の書き方を学ぶ
- 新聞記事が読めるようになる

第９課　紫外線の人体への影響と対策 …… 190
- 比較的専門的な語彙と複雑な内容の文章を読み、理解できるようになる
- 構成に留意しながら説明的文章を読む



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第10課　オンライン学習に関するパネルディスカッション …… 210
- ある話題について、自己の主張やまとまった意見が述べられ、他人の意見に対して賛成や反対の意見が述べられる
- ディベートや討論会の進め方を理解する

语法索引 …… 232
单词索引 …… 234
专栏索引 …… 245
参考文献 …… 246
编者后记 …… 248
北京市高等教育自学考试课程考试大纲 …… 249

# 第１課

## 川柳を作る楽しみ

**トピック**　川柳

**形　式**　エッセー

**学習目標**

- 日本の文学の一形式である川柳に親しむ。
- 川柳を通して、日本の社会事情や文化を理解する。

**読む前に**

- 川柳とはなんでしょうか。調べてください。
- インターネットからおもしろい川柳を探してください。

**文法項目**

① それほど～ない＜程度不高＞
② Ｖばかりだ＜消极趋势＞
③ Ｎをもとに（して）＜根据；题材；基础＞
④ Ｎに至るまで＜终点；极端的事例＞
⑤ ～を機に（して）＜时机＞
⑥ Ｖかける＜动作未完成＞
⑦ ～にもかかわらず＜转折＞
⑧ ちっとも～ない＜全部否定＞

張さんは日本文学の学習の一環として、川柳に興味をもち、関連雑誌記事を読んでみることにしました。

## 川柳の楽しみ

米田隆（よねだたかし）

もともと子どもが好きだった私は、大学の教育学部に進学し、卒業してすぐ小学校の教員になった。教職に就いて38年、いくつもの学校を回って無事に教員生活を終えた。教員時代は仕事中心の生活であったが、ある年に校内放送の係となった時、上手な話し方の習得を目指して演劇に取り組んだ。演劇のおもしろさがだんだん分かるようになり、一時期かなり熱中して充実した時間を過ごした。しかし振り返ってみると、教員時代に仕事以外で興味を持って時間を割いたものはそれほどない。退職が近づいたころは、辞めたら家庭菜園でもやって、気ままな生活を送ろうと思っていた。ところが、いざ退職してみると、毎日なんとなく時間が流れていくばかりである。さて、何かしなくてはと思い始めたころ、新聞の広告欄に載っていた「ＮＨＫ川柳講座」の募集案内が目に止まった。私はさっそく入門コースの受講を申し込んだ。

実は、以前から「サラリーマン川柳」に興味を持っていて、毎年２月に発表される入選候補作を読んで、鋭く世相を斬るきらりと光る言葉に感心していた。少しは川柳に関する下地があったわけで、このころの私は、これが川柳だと思っていた。そこで、ＮＨＫの講座に送る作品は、「サラリーマン川柳」で得た知識をもとにして作り、添削指導を受けることにした。添削１、２回目の講師は、「川柳歴がないわりには上手です。将来が楽しみです。」とヨイショしてくれた。そうと分かっていても、人間だれしも褒められるのはうれしいものである。講師の褒め言葉に自信を持った私は、前の２回よりもっと高い評価をくれるだろうと思って、３回目の添削に次の句を送った。

（課題「咲く」）　サクラ咲く電報まるで請求書

（自由吟）　ぜひ頼む妻の口にも消費税

しかし、３回目の添削をしてくれた講師は、この二句に、「ねらいはおもしろいのですが、あまりに皮肉をねらいすぎてしまって、川柳として品のないものになっています。これでは手を入れることが難しいですね。今後も川柳を続けるつもりなら発想の転換が必要です。」という寸評を付けて送り返してくれた。この評は、独りよがりでいい気になっていた私の頭をガツンとたたいた。とは言え、入門コースの人間を対象にした講座の添削にしては、実に手厳しい批評だったと思う。いま思えば、この厳しい言葉は、私にとってはたいへんありがたいものであった。私の目を覚ましてくれ、その後今に至るまで川柳を詠み続ける道筋を作ってくれたからだ。

これを機に、私は川柳をもっと勉強しようと思い、川柳の総合雑誌の購読をすることにした。また、有名な吟社の誌友にもなり、その雑誌に載っている句を中心にして、できるだけ多くの川柳を読み、サラリーマン川柳にはなかった、深みのある多くの句に接することができた。その結果、私の川柳に対する発想は大きく転換することになった。

川柳のおもしろさが少し分かりかけてきたころ、ＮＨＫの講座をとおして知り合ったペンネームぶんぶんさんから、「吊り上げて吊り下げられて湯につかり」という句を添えたお手紙をいただいた。ぶんぶんさんは重度の身体の障害を抱えていて、この句は施設での自らの入浴の場面を詠んだものである。彼は重い障害に押しつぶされることなく、むしろ当事者である自分を第三者的な目で見て、毎日を悠々と過ごしている。絵の好きな彼は、電動車椅子に乗ってスケッチに出かけたり、月末は自らショートステイを利用したりするなどして、日常生活での家族の負担を少しでも軽減しようとする心遣いも忘れなかった。若いころ病気で１年近く入院経験のある私は、不自由な生活をされているのにもかかわらず、嘆きや悲しみ、焦り、暗さなど微塵もない彼の生き様に敬服した。

平成13年（2001年）元日、ぶんぶんさんから文通18回目になる、「私も一から始

めます」という言葉を添えた年賀状をいただいた。しかし、翌年の元日に19回目の便りは届かなかった。彼の健康状態を気にかけていたその年の３月の初め、奥様の名前で封書が届いた。もしやという悪い予感が的中した。手紙には、１月３日に脳出血によってぶんぶんさんが亡くなったことが綴られていた。

ぶんぶんさんとは手紙のやり取りを通しての短い付き合いだったが、手ぶらでもうれしい友が二人いると思っていた私にとって、彼はかけがえのない永遠の柳友である。私は彼の訃報に接し、万感の思いを込めて、スケッチに行くかぶんぶん黄泉の旅という句を詠み、冥福を祈って合掌した。

思えば、届く年賀状の数は、退職後年を重ねるごとに次第に少なくなってきた。人それぞれに事情があるので仕方がないとはいえ、付き合いの幅が狭まるのは寂しいことである。加えて、最近は裏面のみならず、宛名まで印刷された年賀状が増えてきた。これでは義理で年賀状を出していることを相手に知らせるようなものである。人の振り見て我が振り直せ、私は数年前から年賀状に近況を詠んだ句を一、二句添えるようにしている。例えば、ある年の年賀状には次の句を添えた。

平凡という幸せに出るあくび
退院のロッカーに置く鶴一羽
肉親の介護だんだん語気が荒れ

年賀状を読んだ友人からは「おまえが病気だったなんてちっとも知らなかった。その後病気はどうなんだ。もうすっかりいいのか。」「オレも経験したから分かるけど、介護する方が病気になっては本末転倒だぞ。奥さんが介護疲れしないように、おまえができるだけ支えてやれ。」などという電話があった。こうした言葉を耳にすると、年賀の挨拶に添えた句をわかってくれている人がいることが実感できてうれしい。これからも、頭の働くかぎり川柳を作り続けたいと思っている。

指五本川柳作るためにある

【注】川柳は、俳句と同様に「五・七・五」の十七音の「定型詩」であるが、口語が主体で、季語や切れ字の制限もない。

李　想：川柳は季語など難しい制限がないから、僕たちでも作れそうだね。

張子琳：李さんも日ごろ感じたことをサラリーマン川柳にしてみたら？

## 単　語

川柳（せんりゅう）①③【名】（日本文学形式之一）川柳

もともと ⓪【名・副】原来，本来；与原来一样

教職（きょうしょく）⓪【名】教育工作者

就く（つく）①②【自Ⅰ】从事，就职；置身于；出发，赴；沿着，跟随；袒护

終える（おえる）⓪【自他Ⅱ】做完，结束

習得（しゅうとく）⓪【名・他Ⅲ】掌握，习得，学会

演劇（えんげき）⓪【名】戏剧

だんだん（段々）⓪【名・副】渐渐；（事情）一桩桩，一件件

一時期（いちじき）③【名】（某一）时期

振り返る（ふりかえる）③【他Ⅰ】回顾，回头看

割く（さく）①【他Ⅰ】腾出，空出

それほど～ない　并不那么……

菜園（さいえん）⓪【名】菜园

気まま（きまま・気儘）⓪【名・形Ⅱ】任性，放纵

いざ　①【副・感嘆】一旦；（表催促）喂

なんとなく（何となく）④【副】不知为何，不由得

～ばかりだ　只是，光……

広告欄（こうこくらん）④【名】广告栏，广告版

広告（こうこく）⓪【名】广告

一欄（－らん）　……栏

載る（のる）⓪【自Ⅰ】登载，刊载；放置；车载容量

NHK（エヌエチケー）⑥【名】（「日本放送協会」的简称）日本NHK电（视）台

目に止まる（めにとまる）①－⓪看见，映入眼帘

入門（にゅうもん）⓪【名・自Ⅲ】入门，初级；入门投师；进入门内

受講（じゅこう）⓪【名・他Ⅲ】听课，受训

サラリーマン（salaried man）③【名】公司职员

入選（にゅうせん）⓪【名・自Ⅲ】入选

候補（こうほ）①【名】候补，候选人

世相を斬る（せそうをきる）⓪－①　抨击世态

斬る（きる）①【他Ⅰ】抨击，批评；劈，砍；裁掉，解雇

きらり（と）②③【副】光芒一闪；事情明朗

光る（ひかる）②【自Ⅰ】发光；（才能等）格外突出

感心（かんしん）⓪【名・自Ⅲ】佩服，钦佩

関する（かんする）③【自Ⅲ】有关

下地（したじ）⓪【名】基础，底子；资质，天性；汤底，汤汁

～をもとにして　以……为基础

添削（てんさく）⓪【名・他Ⅲ】修改，增删，斧正

ヨイショ　①【感嘆・自Ⅲ】搬运重物或起身时喊的号子；讨好，戴高帽子

だれしも（誰しも）①【名】无论是谁

褒め言葉（ほめことば）③【名】夸奖之辞

句（く）①【名】诗句；句子；短语

電報（でんぽう）⓪【名】电报



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

請求書(せいきゅうしょ)⓪⑤【名】账单
請求(せいきゅう)⓪【名・他Ⅲ】报帐，请求
自由吟(じゆうぎん)②【名】非命题作诗
消費税(しょうひぜい)③【名】消费税
一税(一ぜい) ……税
ねらい(狙い)⓪【名】目标，目的；瞄准
あまりに(余りに)⓪③【副】过于
皮肉(ひにく)⓪【名・形Ⅱ】讽刺，捉弄
品(ひん)⓪【名】品味，雅致
手を入れる(てをいれる)①—⓪ 加工，修改，润色
転換(てんかん)⓪【名・他Ⅲ】变换，转变
寸評(すんぴょう)⓪【名】短评
送り返す(おくりかえす)④【他Ⅰ】送回，退回
評(ひょう)⓪【名】评论，批评
独りよがり(ひとりよがり)④【名・形Ⅱ】自以为是
ガツン(と)②【副】狠狠地；咣地一声
手厳しい(てきびしい)④【形Ⅰ】厉害，严厉
目を覚ます(めをさます)①—②睁开眼睛，醒来
覚ます(さます)②【他Ⅰ】醒悟，觉醒；醒来，弄醒；醒酒
～に至るまで(～にいたるまで) 直到
至る(いたる)②【自Ⅰ】至，到(时期，状态，程度等)
詠み続ける(よみつづける)⓪⑤【他Ⅱ】一直吟咏
詠む(よむ)①【他Ⅰ】吟咏；歌咏
道筋(みちすじ)⓪【名】道路，路线；事理，条理
～を機に(～をきに) 以……为契机
総合(そうごう)⓪【名・他Ⅲ】综合，融合
購読(こうどく)⓪【名・他Ⅲ】购阅，购买
吟社(ぎんしゃ)①【名】诗社
誌友(しゆう)⓪【名】诗友
ペンネーム(pen name)③【名】笔名
吊り上げる(つりあげる)④【他Ⅱ】吊起；抬高
吊り下げる(つりさげる)④【他Ⅱ】悬挂，吊
つかる(浸かる)⓪【自Ⅰ】浸，泡；沉浸，沉湎
重度(じゅうど)①【名】重度，疾病、身心障碍等的程度严重
押しつぶす(おしつぶす)④【他Ⅰ】压垮；压烂，挤碎
当事者(とうじしゃ)③【名】当事人
第三者(だいさんしゃ)①—① 【名】局外人，旁人
悠々と(ゆうゆうと)⓪【副】悠悠，不紧不慢；绰绰有余；浩瀚
電動車椅子(でんどうくるまいす)⑦【名】电动轮椅
電動(でんどう)⓪【名】电动
車椅子(くるまいす)③【名】轮椅
スケッチ(sketch)②【名・他Ⅲ】写生，素描
月末(げつまつ)⓪【名】月末
ショートステイ(和制英语short stay)⑤【名】短期陪住。对卧病在床的老人暂时由福利部门派人陪住照料的一种制度。
軽減(けいげん)⓪【名・他Ⅲ】减轻，缓解
心遣い(こころづかい)④【名】操心，关怀，用心
不自由(ふじゆう)①②【名・形Ⅱ・自Ⅲ】不自由，不如意，不便
～にもかかわらず 尽管，即使
悲しみ(かなしみ)⓪③【名】悲哀，哀伤
微塵(みじん)⓪【名】微尘，尘埃；微量，一点儿
生き様(いきざま)⓪【名】生存方式
敬服(けいふく)⓪【名・自Ⅲ】敬佩，钦服
元日(がんじつ)⓪【名】元日，新年第一天
文通(ぶんつう)⓪【名・自Ⅲ】通信，书信往来
翌年(よくねん・よくとし)⓪【名】第二年
気にかける(きにかける)⓪—②担心，挂念
封書(ふうしょ)⓪【名】书信，信函
もしや(もしや)①【副】或许，可能
予感(よかん)⓪【名・他Ⅲ】预感，预兆
的中(てきちゅう)⓪【名・自Ⅲ】命中，中的；

中奖
脳出血(のうしゅっけつ)③【名】脑出血，脑溢血
綴る(つづる)⓪②【他Ⅰ】写作，书写；缝合，拼接；装订
やり取り(やりとり)②【名】互通书信；对话，交谈，争论，争吵
付き合い(つきあい)⓪【名・自Ⅲ】交往，交际；陪同，应酬
手ぶら(てぶら)⓪【名】空手(去别人家做客)
永遠(えいえん)⓪【名】永远，永恒
柳友(りゅうゆう)⓪【名】喜爱川柳的友人
訃報(ふほう)⓪【名】讣告
万感(ばんかん)⓪【名】百感，各种感情
黄泉(よみ)①【名】黄泉
冥福(めいふく)⓪【名】冥福，死后的幸福
合掌(がっしょう)⓪【名・自Ⅲ】双手合掌；(建筑)人字架
年を重ねる(としをかさねる)②—⓪岁月更迭
重ねる(かさねる)⓪【他Ⅱ】积累，重复；搭，摞
仕方(しかた)⓪【名】作法，做事的方法；举止，作派
狭まる(せばまる)③【自Ⅰ】缩小，变窄
裏面(りめん)①【名】内面，背面；内情，幕后，阴暗面
宛名(あてな)⓪【名】收件人姓名地址
人の振り見て我が振り直せ(ひとのふりみてわがふりなおせ)以人为镜，反躬自省
振り(ふり)②【名】动作，样子；挥动，舞动
近況(きんきょう)⓪【名】近况
平凡(へいぼん)⓪【名・形Ⅱ】平凡，普通
あくび ⓪【名】(打)哈欠
肉親(にくしん)⓪【名】骨肉亲，血亲
語気(ごき)①【名】语气，语调
ちっとも③【名】全然(不)，毫(不)；只要稍微，哪怕一点儿
オレ(俺)⓪【名】(男性对同伴或晚辈称呼自己)我，俺
本末転倒(ほんまつてんとう)①—⓪【名・自Ⅲ】本末倒置
介護疲れ(かいごづかれ)④【名】因照顾他人而身心疲惫
耳にする(みみにする)② 听见，听闻
年賀(ねんが)①⓪【名】贺年，拜年；祝寿
俳句(はいく)⓪【名】(日本文学形式之一)俳句
定型詩(ていけいし)③【名】定型诗，格律诗
口語(こうご)⓪【名】口语；现代白话
主体(しゅたい)⓪【名】主体，主要部分
季語(きご)①【名】(俳句，连歌等中使用的)季语
切れ字(きれじ)⓪②【名】起断句作用的字词

## 文型の学習

### 1．それほど～ない<程度不高>

✐しかし振り返ってみると、教員時代に仕事以外で興味を持って時間を割いたものはそれほどない。

「それほど」与名词、动词、形容词的否定形式搭配使用，表示并没有达到很高的程度。相当于汉语的“并没有那么……”。

(1) 雪はそれほど降っていないが、風が強くて寒い。
(2) 今の仕事はそれほど好きではないわりに、長く続いている。
(3) 彼女はそれほど美人ではないかもしれないが、心は美しい。
(4) ネットでの評判を見て少し不安だったが、実際に店に行ったらそれほど悪くはなかった。

## 2．Vばかりだ＜消极趋势＞

✐ところが、いざ退職をしてみると、毎日なんとなく時間が流れていくばかりである。

「ばかりだ」接在表示变化的动词词典形的后面，意为事态一直朝不好的方向发展，并有加重趋势。相当于汉语的“光……”、“只是……”。

(1) 外国語は使わないと忘れるばかりだ。
(2) 景気のせいで収入が減るばかりで、生活が厳しい。
(3) 最近運動不足でどんどん太るばかりなので、ダイエットに挑戦している。
(4) 夏至（げし）が過ぎて、これから日照時間は短くなるばかりだ。

## 3．Nをもとに（して）＜根据；题材；基础＞

✐NHKの講座に送る作品は、「サラリーマン川柳」で得た知識をもとにして作り、添削指導を受けることにした。

「をもとに（して）」接在名词后面，表示以此事物为题材或基础进行创作、制作等。

(1) アンケート調査の結果をもとにして報告書を作成する。
(2) 市民の意見をもとに、必要に応じて方案の見直しを行う。
(3) この小説は、作者が父親から聞いた話をもとに書かれたものだそうだ。
(4) 漫画や小説の原作をもとに、映画やアニメ、ドラマが作られることは多い。

## 4．Nに至るまで＜终点；极端的事例＞

✐私の目を覚ましてくれ、その後今に至るまで川柳を詠み続ける道筋を作ってくれたからだ。

「に至るまで」接在时间名词的后面，表示终点，可与「まで」互换，有时间跨度较长的含义；此外，多以「$N_1$から$N_2$に至るまで」的形式出现，列举出两个极端的事例，强调该范围内的所有事项都包括在内，可与「まで」互换。相当于汉语的“从……到……”。

(1) これは第二次世界大戦に至るまでの秘話が書かれた本である。
(2) 挨拶の仕方から箸の使い方に至るまで口うるさく注意された。
(3) この映像はその作家の生い立ちから今日に至るまでを紹介するものだ。
(4) この若い女性は、頭の先から足の先に至るまで、ブランド品を身につけていた。

## ５．～を機に（して）＜时机＞

✐これを機に、私は川柳をもっと勉強しようと思い、川柳の総合雑誌の購読をすることにした。

「を機に（して）」接在名词或动词体言化形式的后面，表示以此为契机，实现了某一动作或发生了某一变化。相当于汉语的“借……的机会”。

(1) 結婚を機に、初めての海外生活を始めた。
(2) 子供が生まれるのを機に職場を離れることにした。
(3) 彼女は大学卒業を機にアメリカ留学を決意した。
(4) インターンシップに参加するのを機に、スーツやバッグなど就職活動の必須アイテムを揃えた。

## ６．Ｖかける＜动作未完成＞

✐川柳のおもしろさが少し分かりかけてきたころ、……

「かける」接在动词第一连用形后面，构成复合动词，表示该动作刚刚开始，还处于进行的状态尚未完成。后面修饰名词时用「ＶかけのＮ」，也可以以「Ｖかけだ」的形式结句。相当于汉语的“刚刚开始……”、“……了一半”。

(1) 突然の停電で書きかけたブログが消えてしまった。
(2) なんだよ。言いかけたら言うんだよ。
(3) 飲みかけのワインはどう保存したらいいですか。
(4) この携帯は壊れかけだ。電池があっという間になくなるし、いきなり画面が真っ黒になるし。

## ７．～にもかかわらず＜转折＞

✐若いころ病気で１年近く入院経験のある私は、不自由な生活をされているのにもかかわらず、嘆きや悲しみ、焦り、暗さなど微塵もない彼の生き様に敬服した。

「にもかかわらず」接在名词、“名词＋である”、“Ⅱ类形容词词干＋である”或动词、形容词简体形式的后面，表示转折意义，后项叙述根据前项内容难以推断出的内容。也可以如例（5）所示，作为连词在后一句的句首使用。为书面语。相当于汉语的“虽然……，但是……”。

(1) 日差しが強くて、短時間にもかかわらず、かなり日焼けをしてしまった。
(2) 一生懸命がんばったにもかかわらず、目標を達成させることができなかった。
(3) たいへんな作業にもかかわらず、参加者はみなとても楽しそうだった。
(4) こんなに暑いにもかかわらず、たくさんの方に来ていただき、ありがたく思います。
(5) ここの博物館は、幾度も前を通ったことがある。にもかかわらず、一度も入ったことがない。

## 8．ちっとも～ない<全部否定>

✐おまえが病気だったなんてちっとも知らなかった。

「ちっとも」与动词、形容词的否定形式搭配使用，表示全部否定。相当于汉语的“一点都不……”、“根本不……”。

(1) この文章は一体何を言いたいのか、ちっとも分からない。
(2) 料理はちっとも上手ではないけど、自己満足している。
(3) こんなに忙しいのに、娘がちっとも手伝ってくれない。
(4) ムシャクシャした気分で酒を飲んだので、ちっともおいしくなかった。

# いろいろな表現

### 有名な俳句

俳句は季節を表す季語と呼ばれる言葉を入れて、五・七・五の17文字で作る短い詩です。

古池(ふるいけ)や　蛙(かわず)飛(と)びこむ　水(みず)の音(おと)　　松尾芭蕉

古池にとつぜんかえるが飛びこんだ。その水音が一瞬あたりの静けさを破ったが、またすぐもとの静けさにもどった。ほんとうに静かだ。

季語：蛙（春）

菜の花や　月は東に　日は西に　　与謝蕪村

夕方近い、一面の菜の花畑。月が東の空に登り、振り返ると日は西の空に沈もうとしているよ。

季語：菜の花（春）

やれ打つな　はえが手をする　足をする　　小林一茶

それ、蝿を打ち殺してはいけない。よく見ると、手をすり合わせて命乞いをしているではないか。

季語：はえ（夏）

大の字に　寝て涼しさよ　寂しさよ　　小林一茶

わが家の座敷で大の字に寝そべると、折から涼しい風が吹いてきて、とても気持ちがよい。しかし、故郷では誰ひとり暖かく迎えてくれる人もなく、一人ぼっちとなった自分の寂しさがこみあげてくる。

季語：涼しさ（夏）

秋深き　隣は何を　する人ぞ　　松尾芭蕉

秋が深まり、野山がどことなくさびしく感じられるようになると、人恋しくなり、隣人のことなどが気になってくる。

季語：秋深き（秋）

柿くへば　鐘が鳴るなり　法隆寺　　正岡子規

法隆寺の門前の茶店で休んだ。そこで柿を食べていると、寺から鐘の音がひびいてきた。あたりの静けさとあいまって、秋ののどかさが感じられる。

季語：柿（秋）

ともかくも　あなたまかせの　年の暮　　小林一茶



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com